

# 専念寺通信

七月号 (NO. 131)

<http://sennenji.s296.xrea.com/>

梅雨の季節から、すでに猛暑日、熱帯夜、という言葉が使われるようになった昨今です、皆さま、おかわりなくお過ごしでしょうか。この暑さのなか、被災地の皆さんはどうしていらっしゃるかと考えると、本当に試練の夏という気持ちが致します。祈る以外のことを何でもよいからせぬにいられない思いの今年の夏です。

## ☆盂蘭盆会

7月13日から15日までが夏のお盆です。精霊棚をつくり、マコモで作ったごぎを敷き、そうめん、夏野菜、ほおずきなどをお供えます。きゅうりや茄子で牛や馬を作り、お供えることもあります。これは、亡くなった大切な人が向こう側からかえって来るときは脚の速い馬に乗ってきてほしい、そして、向こう側へ戻って行くときは、反対に、歩みの遅い牛の背にのって、ゆっくりゆっくり戻って行ってほしい、という、私たちの祖先の思いが込められています。入りの日に、「迎え火」を焚き、明けの火に「送り火」を焚く習慣もあります。

都会では住宅事情から、家の外で火を焚くことは難しくなりました。京都の「大文字焼き」は私たちの国で一番有名な、美しい「送り火」です。

それぞれの宗教がそれぞれの記念日を持つように仏教も、季節により、さまざまな行事があります。長く農業国であった日本の風土にあわせた春と秋の彼岸、4月のお釈迦さまの誕生の日、また、餓鬼に施しつつ、厳しい生をいきている

すべてのもの、人を思い、祈るという施餓鬼会、そして何より一年に一度亡くなった人が帰って来るお盆、私たちの国の、この四季おりおりのさまざまな行事は、私たちの日々の暮らしになじみやすいものです。亡くなった人が必ずかえって来る日がある、という発想は心にしみるやさしいものです。そのために、かえって来る場所がわかるようにと火を焚くとは、なんときめのこまかい思いでしょう。

## ☆新盆合同供養会

今年も新盆を迎えられるご家族のために新盆合同供養会を行ないます。7月10日(日曜)午前11時から、本堂にてとりおこなわせていただきます。新盆を迎えられる檀家さまには電話でお知らせいたしました。式の30分前くらいまでにご来寺ください。

☆ちいさなお知らせ：以前、『通信』でもお知らせ致しましたNPO法人「幼い難民を考える会」は、今回の震災を受けて、東北地方に義捐金や物資をスタッフがみずから運んでいることが分かりました。文京区音羽にある事務所に大黒が参りましたところ、かなりの数のボランティアさんが手作りの遊具や衣類を宅配便として詰めているところでした。責任者さんに聞いたところ、この宅配便は岩手県、宮城県などの寺、保育所などにまず届け、荷物が着く頃に、寄付金と、持てる限りのミルクや菓などを持って、正規の職員さんが泊まりがけで既に何度か行っているとのことでした。この組織の確かさが確認でき、また小さい組織だからこそその対応の早さなどを考え、専念寺として「日本赤十字」の他、ここにも寄付させて頂くことに致しました。ご報告や領収書など、お盆までに大玄関に置かせて頂きます。きびしい暑さが続きます。皆さまくれぐれもご自愛下さいませ。平成23年7月1日大黒

